

マスメリットの創出と 社会課題への対応に向けて おいしさを究める

アクシアル リテイリング株式会社
代表取締役社長・CEO

原 和彦



この度、第24版となる「CSRレポート2024」を発行いたしました。

昨年2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで日常を取り戻し、人流が戻りお盆やお正月休みの帰省客が増え、事業への追い風となりました。このような事業環境の下で、私たちはアクシアル リテイリング設立10周年という節目を迎え、経営体制を刷新し、当初の目的である「マスメリットの創出」に向けて取り組んでまいりました。その改革はまだ緒についたばかりではありますが、確実にあゆみを進めています。

製造機能を担う(株)ローリーは、店舗数拡大に伴う製造の「量」と「質」の向上に向け、デリカセンターを新設しこの春に稼働を開始しました。また、物流機能を担う中之島チルドセンターでは増改装を行い、店舗への商品安定供給に向けた体制を整えました。

このように、規模の拡大に向けた対応と機能の整備を進めていますが、規模と機能を支えるのは人です。私たちはTQM(総合的品質管理)を根幹に据えた経営を行うと同時に、このTQMに基づいた人づくりを進めています。これら規模・機能・人材によってチェーンストアとしてのマスメリットを創出し、お客様に「豊かさ・楽しさ・便利さ」をご提供すること、これが私たちの目指すグランドデザインとなります。

また、昨年度は「事業と社会性の一体化」を目指したエシカル商品「Hana-well」を立ち上げました。この「事業と社会性の一体化」とは、従来事業活動と社会課題対応が別々の取り組みであったのに対し、商品を一品一品販売すること自体が何かしら社会課題への対応に貢献することを目指した活動を指しています。

例えば、昨年度多くのお客様からご支持の高かった商品に「新潟県のお米と茶豆でつくった『ふわっと』」がございます。これは、私たちと同じ新潟県長岡市に本社を構える岩塚製菓様から主旨にご賛同いただき、同社を代表する商品「ふわっと」に規格外の新潟県産

茶豆を練り込んだ米菓です。この取り組みによって、従来食されることのなかった規格外茶豆の廃棄の削減につなげることができました。

社会課題への対応に貢献する「Hana-well」商品は昨年春に約60アイテムでスタートしましたが、現在は140アイテムを超える品揃えとなりました。社会課題への対応に貢献するというこの取り組みは、長く続けることが大切となります。

「Hana-well」商品に限らず、プライベートブランド商品や惣菜等オリジナル商品が長くお客様からお買い求めいただくためには、「おいしさ」が最も重要だと考えています。おいしいからこそ、多くお買い上げいただければ、そこからマスメリットが生まれ、お手頃な価格でご提供ができ、さらに良い商品へと磨かれる、という好循環が生まれます。今年度はこの「おいしさ」をドマんな中に据えた事業展開に注力してまいります。

本CSRレポートでは、環境についての取り組みについてもご紹介しています。昨年度、原信白根店が建物の省エネ達成度ランク最高位の『ZEB』認証をいただきました。これは食品スーパーマーケットでは初めてのことで、私たちの環境経営の取り組みが結実した認証となりました。

また、物流2024年問題を迎える中、物流におけるドライバー不足問題への対応やCO2排出抑制を目的に、遠隔地からの野菜調達において、長距離物流を鉄道貨物で輸送するモーダルシフトの取り組みを新たに始めました。この取り組みは共同調達機構CGCグループおよびその加盟スーパーマーケットと共同で行っているものですが、非常に高く評価され経済産業省・国土交通省が主催する会議で表彰をいただきました。

これからも私たちは、社会課題への対応について一つ一つ向き合い、持続可能な社会の実現に向けて貢献してまいります。